

# 公共施設情報だより

令和 8 年 4 月発行  
高山市総務部行政経営課  
第 8 号

本号では、観光施設について解説していきます。令和 8 年 4 月 1 日時点では 10 施設あります。

●各施設ごとの施設のあり方や整備等の方針については下表のとおりです。

大分類：(2) スポーツ・レクリエーション系施設 小分類：③観光施設

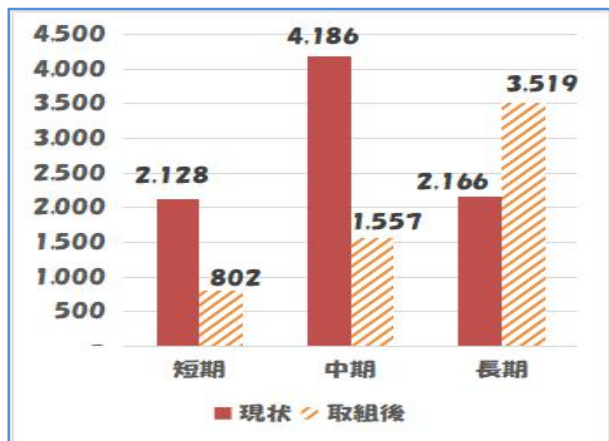
施設名	施設のあり方		施設の整備等		
	方針	時期	方針	時期	
飛騨民俗村	継続	—	更新等	長期	
飛騨高山観光案内所				—	
荘川の里				長期	
新穂高センター				中期（後半）	
野麦峠お助け小屋					
乗鞍バスターミナル					長期
飛騨高山にぎわい交流館「大政」					—
平湯大滝公園				譲渡	中期（前半）
殿下平総合交流ターミナル					
森林公園大倉滝	廃止	R5	活用 (売却・貸付) または解体	—	
そばの里荘川	譲渡	中期（前半）	—	—	
ひだ清見ラベンダー公園	廃止	R4	解体	R5	
野麦峠の館		R3	解体	中期（前半）	
野麦の里		R2	活用 (売却・貸付) または解体	—	

短期：R2～R6（2020～2024）、中期（前半）：R7～R11（2025～2029）、中期（後半）：R12～R16（2030～2034）、長期：R17～R31（2035～2049）

●観光施設の管理・運営に関する基本的な方針は下記のとおりです。

基本的な方針
<p>&lt;民間活力導入の実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源活用が有効な指定文化財施設にあっては、施設を維持しつつ民間のノウハウを活用して利用度・利便性が高まる手法をすすめる</li> <li>・PPP／PFIなど民間活力の導入を検討する</li> <li>・施設の利用状況やニーズを把握し、民間への譲渡などを検討する</li> </ul> <p>&lt;統廃合、複合化・多機能化の実施方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済波及効果の低い施設や、地域内の民間類似施設と競合する施設においては、統廃合を検討する</li> <li>・施設の形態に公園緑地の要素がある場合は、施設の位置づけを検討の上、適切に管理・運営を図る</li> </ul>

## 観光施設の将来負担経費（単位：百万円）



現状のまま更新等を続けた場合、30年間で約84.8億円かかる見込みですが、上記方針に基づく取り組みにより、約58.8億円（約△26億円、約△30.7%）となる予定です。

（単位：百万円）

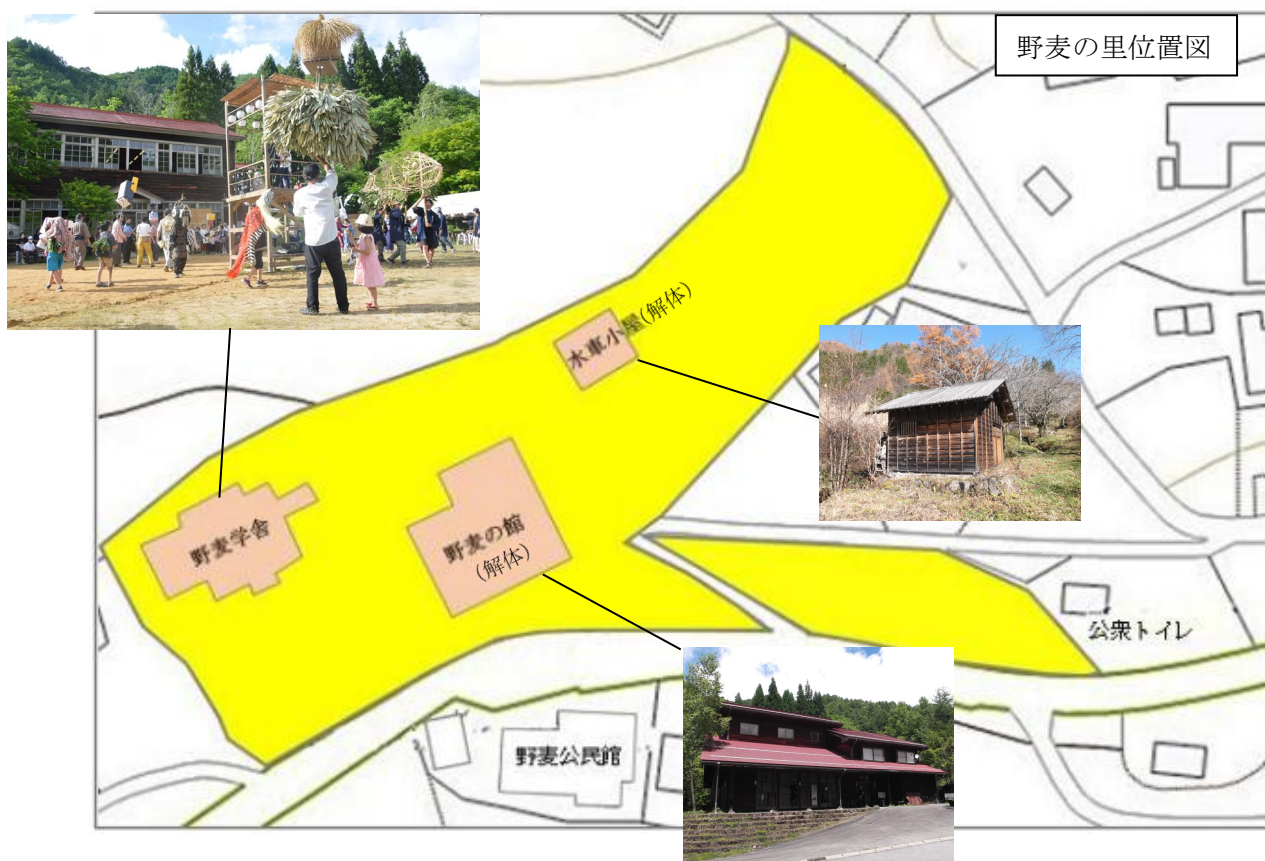
	短期	中期	長期	計
現状	2,128	4,186	2,166	8,480
取組後	802	1,557	3,519	5,878
増減	△1,326	△2,629	1,353	△2,602

## ●廃止とした施設の有効活用事例

「野麦の里」は、野麦の館、野麦学舎、野麦の里公園といった施設で構成されていた観光施設で、平成25年度までは指定管理者制度により管理運営がなされていましたが、平成26年度以降は休止となっていました。

令和2年度をもって施設の用途廃止を行い解体する予定としていましたが、「野麦学舎を保存し、地域の力になれるよう活用したいので譲り受けたい」との申し出を受け、令和4年度に譲渡を行いました。（野麦の館及び水車小屋については解体）

この施設を譲り受けた団体は、令和5年6月より当施設を「地域文化の発信拠点」として活用されており、現在は音楽会や人形劇といった多彩なイベントを積極的に開催されています。



「森林公園大倉滝」は食堂、貸コテージ、公衆トイレなどといった施設で構成されていた観光施設で、令和5年度までは指定管理者制度により管理運営がなされていました。

令和5年度をもって施設の用途廃止を行い、貸コテージは解体、公衆トイレや東屋は当該エリアが生活環境保全林内であることから、生活環境保全林の公衆トイレ等として引き続き使用しているほか、食堂についてはそれまでの指定管理者が借り受けて引き続き活用されています。

